

## 第25回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

### 1. 日程

日時:平成27年9月28日(月) 14:00~16:45

場所:Jヴィレッジアルパインローズ

### 2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

復興庁:白井次長(福島復興局)

農林水産省:岡田生産推進室長

農林水産省水産庁:竹葉研究指導課長

国土交通省:小俣河川環境課長

環境省:水環境課 課長補佐

廃炉・汚染水対策チーム:田中事務局長補佐、尾澤事務局長補佐、  
江口対策官、豊口企画官

廃炉・汚染水対策現地事務所:生越所長、木野参事官、谷田調整官、  
岡山対策官、小野対策官、小形対策官

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:松永現地事務所長

東京電力:石崎福島復興本社代表、有馬バイスプレジデント、  
白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):小山原子力専門員

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

### 3. 結果概要

#### (1) 議長冒頭挨拶

○本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○本日、2ヶ月ぶりに福島第一原子力発電所を視察した。

○9月10日の北関東での記録的な豪雨をはじめ、今年は台風等による大雨が多く、福島第一原発でも、K排水路の雨水の一部が外洋へ流出するという事象が何回か発生したほか、タンクの内堰から外堰内へ雨水が漏えいするという事象も数件発生している。このような、最近の発生事象について報告を受け、今後の対策について議論したい。

○また、汚染水対策については、2年前大きくクローズアップされてから、今回、大きな進展があった。サブドレンについて、地元の皆様のご理解のもと、9月3日から汲み上げ、9月14日から排水を開始し、海側遮水壁の閉合作業は9月10日から再開している。陸

側遮水壁は先行して凍結する山側の工事が9月15日に完成。その他の対策も着々と進行しているため、それらの進捗状況について報告を受けたい。

○廃炉・汚染水対策を進め、風評被害を軽減していくためには、一つ一つの対策を着実に実行していくこととあわせ、国内外に福島状況を正しく理解していただくことが重要。そのため、今月開催されたIAEA総会においても、福島の現状をまとめた動画を放映し、各国の関係者にも対策が進み、復興が始まっている状況をご理解いただいたところ。

○本日は、報道関係者も含めた皆様に動画を御覧頂いた後、会議を始めたい。対策によるリスクの低減、風評被害の軽減に向け、本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

## (2) 会議概要 (主な指摘事項)

### **議題2**

<資料1-2>

➤ 今後のカバー解体、ガレキ撤去については、飛散防止を行いながら着実に実施すること。

### **議題5**

<資料1-5-1>、<資料1-5-2>

➤ 今回のバキュームカーによる死亡事故は、福島第一原発の特有の事故ではないので、優良事例などを共有しながら、レベルを上げた管理を徹底すること。

### **議題6**

<資料1-6>

➤ 仮置き場に一時的に置いている廃棄物が多く存在するが、仮置き場についても、管理を徹底すること。

### **議題9**

<資料1-9>

➤ つなぎ目や配管貫通部分などの後付け箇所から漏れている。堰はタンクから漏れた水の受け皿であるため、類似箇所を優先的に点検し、漏えいが起こらないように管理すること。

## 議題 1 1

### <資料 2>

- ▶ モバイル式処理装置は、実施計画変更申請などにより運用開始が遅れている。1号機放水路の浄化を着実に進めるべき。
- ▶ 地下水バイパス、サブドレンにより、地下水流入量の削減実績が今後出てくる。汚染水処理対策委員会等でしっかりとフォローし、実績を評価すべき。
- ▶ タンクについて、2016年以降の見通しが示されていないが、今後の見通しについてしっかり示すべき。
- ▶ タンクの設置を着実に進めるとともに、汚染水の増加を抑制するため陸側遮水壁も早く凍結すべき。
- ▶ タンクのリプレースは、タンクの新規設置よりも審査に時間がかかる。解体後の廃棄物の管理について、見通しを立てるべき。
- ▶ 港湾内のテトラポットの浅いところは魚に影響がある。網が下まで達しているのか確認すべき。

### (3) 次回以降の日程

○次回は10月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)